

## 読者投稿欄「なまず通信」

神奈川県温泉地学研究所観測だより（以下、観測だより）では、読者の皆さまからの投稿欄を設けています。掲載記事に関するご意見・ご感想はもとより、皆さまが地震や温泉などについて身近に感じている事柄や、温泉地学研究所に対する叱咤激励などいろいろとお寄せいただければと思います。

○原稿は楷書体でお願いします。

○出来るだけ多くの方のご意見を掲載させていただくため、お一人様の文字数を全角で200字程度までとさせていただきます。

○紙面や編集の都合上、お寄せいただいた全ての原稿を掲載出来ない場合や、お送りいただいた文章を当所において一部編集して掲載させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。

○お送りいただいた個人情報に関しては、当所において適正に管理するとともに、観測だよりのみに使用し、

目的外使用は一切行いません。

○投稿形式は自由ですが、このページ下段に簡単な投稿様式を用意しましたので、ご利用下さい。

（四角枠で切り取って、普通はがきに貼れるサイズとなっています。）

### 送付先について

郵送・FAX・フォームメールでお受けしています。宛先は下記までお願いします。

郵送：

〒250-0031

神奈川県小田原市入生田586

神奈川県温泉地学研究所

編集部会 宛

FAX：0465-23-3589

フォームメール：[https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form\\_mail/request\\_form.php](https://cgi.pref.kanagawa.jp/contents/form_mail/request_form.php)

「お問い合わせ内容」のところに  
ご記入下さい。

### お便りのご紹介

前号（第63号）および、特別号（温地研50年のあゆみ）を送付した際に、読者の皆様からのご意見やご感想をお寄せいただきました。掲載可としていただいたハガキやメール中から一部を紹介させていただきたいと思います。

愛知県 久田様；

富士山の地殻の動向に諸説あるかと思いますが、貴研究所で発表できるレポートがありましたら期待します。

神奈川県 平野様；

開成町の共同井戸の写真をお送りします。現地調査の際にはわからなかったそうですが、先日行ってみたら昔のままでした。私は今でも外出する際には記念碑の所在に気を付けるようにしています。

お名前：

ご住所：〒

(TEL： — — )

ご意見等：

お名前・住所（市町村名まで）の観測だよりへの掲載について

掲載可 匿名希望 その他(具体的に： )

埼玉県 石川様；  
創刊号以来拝読いたしております。  
早く地震予知が確実にできるよ  
うになればと思います。

神奈川県 内田様；  
「地震予知について」興味を持  
って読みました。私は旧庁舎の  
ころからたびたび研究所をた  
づねて、地震と火山について  
教えていただきました。特別号  
にはなつかしい思い出がいっ  
ぱいです。82才、気圧と地中  
の温度（深さ60センチ）を  
観測しております。ありがとう  
ございました。

東京都 上杉様；  
東日本大震災の被災体験は記  
載が正確で感心しました。位  
置情報・時刻情報や写真が多  
数あって、なるほどと思いま  
した。

東京都 丸山様；  
温泉地学研究所創立50年を  
お祝い申し上げます。歴代の  
所長の方々の寄稿文と50年  
のあゆみを拝読し、所員の皆  
様が多岐にわたって重要な  
役割を担い活躍されておられ  
ますことを敬意をもってあら  
ためて認識致しました。

東京都 匿名希望様；  
観測だより第63号に興味深  
く拝読いたしました。特に「  
地震予知について」と「東日  
本大震災の被災体験」は印象  
深く、後者は迫りつつある大  
地震に備えて参考になりました  
。他の記事も内容が充実して  
いて編集の方々に感謝して  
おります。

#### 編集後記

観測だより第63号の読者の  
方々からお送りいただいたは  
がき・メール・FAX等のご  
意見・ご感想などを掲載させ  
ていただきました。紙面の都  
合上、抜粋させていただいたり、

掲載できなかったお便りが多  
数ありましたことをお詫び申  
上げます。

東日本大震災から3年が経過  
し、国や県では最大級の地震  
を想定した新たな被害想定が  
行われています。しかし、今  
後発生が予想される地震の  
規模やメカニズムなどは、  
研究者によっていろいろな  
意見があります。そのような  
ある意味不確定性のある情  
報をどうやって防災行政に  
活かしていくかは、非常に  
難しい問題です。巻頭は、  
里村幹夫所長による「地震・  
火山の被害想定で考えるこ  
と」という記事です。里村  
所長は、静岡大学理学部教  
授・静岡大学防災総合セン  
ター長として長く教育・研  
究活動にたずさわってこられ  
、歴代の所長の中でも、ア  
カデミックな職場での突出  
して長い経験をお持ちのか  
たです。そういった方が、  
行政の中に入って被害想定  
を行おうとするときにどの  
ようなことを感じるのかに  
ついて、寄稿していただき  
ました。

また、昨年引き続き、箱根  
火山の活動について解説した  
記事が「箱根火山の活動」と  
「地学の豆知識」です。私  
たち研究者がどういった点  
に着目して監視しているの  
か、またそれがメディアなど  
で伝えられるときにはどの  
ように誇張されてしまうの  
か、といったことが紹介され  
ています。被害想定もそう  
ですが、研究や観測の結果  
をうまく一般の方に伝えて  
いくことの難しさがわかっ  
ただけかと思えます。

最後に、ここまで読んでい  
た方にはすでにお分かりか  
と思いますが、紙面が大きく  
変わりました。観測だより  
は、より広報誌としての性  
格を強めようということで、  
2008年に紙面のリニュー  
ールを行いました。今号では  
、さらに見やすく、楽しめ  
るように、トピックスとコ  
ラムについてはややレイア  
ウトを変更し、写真や図を  
なるべく大きく

掲載するようにしています。

さらに、これまでモノクロ  
印刷が基本でしたが、なん  
とカラー印刷を採用しまし  
た。これまでも、ホームペ  
ージに掲載する際にはカラ  
ーでご覧いただける部分も  
ありましたが、やはり広報  
誌であるからには冊子をご  
覧になる方にもカラーの写  
真や図を見ていただきたい  
という考えからです。予算  
の厳しいこのご時世に、  
なんという暴挙かとも思  
いますが、いったんカラー  
原稿を見てしまうとやは  
り情報量の多さがモノク  
ロとは比較になりません。

たとえば、今号の「ワク  
ワクはこね温泉」では蛇骨  
温泉がとりあげられていま  
すが、名前のもとになった  
白い温泉スケールも白黒写  
真ではまいち存在感があ  
りません。でもカラーなら  
、源泉のまわりに付着して  
いる白い「蛇骨」をあざや  
かに見ることができ、こ  
れが川底にたまって蛇の  
骨のようにみえる様子を  
頭の中で想像することも  
できます。「かながわ露頭  
まっぷ」では、河原に露  
出した緑色片岩の写真を  
紹介しています。地質学  
において、目で見て岩石  
の特徴を把握することは  
重要なプロセスのひとつ  
ですが、白黒の写真では  
地質学者がみた岩石の特  
徴を伝えることはできま  
せん。カラーにすることで  
、緑色片岩の特徴である  
片理がはっきりと確認  
できるようになりました。

表題や写真・図のキャ  
プションもこれまでの論  
文的な書き方から、より  
視覚に訴えるように、文  
字のフォントやサイズを  
変更しています。まだ  
まだ試行錯誤の段階で  
、改良すべき点は多い  
ですが、より多くの方  
に楽しく読んでいただく  
ために、今後も紙面の  
改良を続けていきたい  
と思えます。（本）